

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4698900018
法人名	有限会社 笑風会
事業所名	グループホーム ゆい
訪問調査日	平成 21 年 8 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4698900018
法人名	有限会社 笑風会
事業所名	グループホーム ゆい
所在地	鹿児島県奄美市笠利町喜瀬2437-1 (電 話) 0997-55-2278

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月22日
評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(21年 7月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	4 人
非常勤	6 人
常勤換算	7.3 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	光熱費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	— 円
	または1日当たり	1000 円		

(4)利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	記念クリニック奄美 赤尾木歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームゆいは、施設長の「地域に安心できるグループホームを作りたい」という思いで設立された。庭から笠利湾が眺められ、ゆったりと時間が流れ、利用者と職員が寄り添って生活している。職員は、自分の家族みたいにに関わり合い、利用者の「ありがとう」という言葉に励まされ、感謝することを忘れずに支援している。開設二年目を迎え、管理者の交代・副施設長の就任で地域のグループホームとして、作り上げて行こうと意欲が感じられ、これからの成長が楽しみな事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の結果について報告されているが、改善点については、改善された部分はあるが、記録が残されていない。管理者の退職で継続されずそのままである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員会議で話し合い作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員・包括支援センター職員・区長・老人クラブ代表・家族代表が参加して2ヶ月毎に開催している。事業所の状況報告を行い、市職員からのアドバイスや集落の情報を得る機会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、居室や会議室でゆっくり話しを聞く機会を設けるように努めている。家族会は発足しているが、活動はまだしていない、今後行事に合わせて家族会を開催して、話しを聞く機会を設ける予定である。面会時などに家族から出された意見・要望は職員間で共有できている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事「種おろし」を事業所内で行ってもらい、地域の方々と八月踊り・六調を踊り楽しんでいる。老人会や近所の方々が季節の野菜を差し入れてもらっている。

2.評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「地域の人々と強い絆を育みます」と文言を入れ、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議時に、理念の振り返りをして職員に意識づけしている。老人会に声をかけたり、地域の行事(種おろし)を事業所に来てもらったりと理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事「種おろし」を事業所内で行ってもらい、地域の方々と八月踊り・六調を踊り楽しんでいる。老人会や近所の方々が季節の野菜を差し入れてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果について報告されているが、改善点については、改善された部分はあるが、記録が残されていない。管理者の退職で継続されずそのままである。自己評価は、職員会議で話し合い作り上げている。	○	自己評価は、時間をかけて作り上げ、職員一人ひとりの介護ケアの振り返りの機会にされることを望みます。外部評価も改善点の継続的な取り組みをされサービスの質の向上に取り組まれることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・包括支援センター職員・区長・老人クラブ代表・家族代表が参加して2ヶ月毎に開催している。事業所の状況報告を行い、市職員からのアドバイスや集落の情報を得る機会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設2年目で市の担当者からのアドバイスをもらう機会が多くあり、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月毎に月次報告で身体状況・食事量・入浴・排泄・睡眠について報告している。6月より「ゆいだより」を発行し事業所での利用者の様子・職員異動の報告をしている。金銭管理については、定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、居室や会議室でゆっくり話を聞く機会を設けるように努めている。家族会は発足しているが、活動はまだしていない。今後行事に合わせて家族会を開催して、話を聞く機会を設ける予定である。面会時などに家族から出された意見・要望は職員間で共有できている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去一年、職員の離職が多い、新人の入職時に、支援内容用紙を渡して、慣れた職員について研修してもらっている。	○	離職を必要最小限に抑える努力をされ、新人研修計画を作り、研修実施記録を書き、確実に新人教育がなされるように望みます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で、マニュアルを使って勉強し、外部研修の場合は、報告して資料を回覧しているが、記録が残されていない。	○	事業所内研修の年間計画を作り、実施記録を残し全職員が研修の内容を周知され職員一人ひとりのケアの向上を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島のグループホーム協議会に加入している。研修会に参加して、職員に報告している。職員の相互訪問などの交流はまだない。	○	職員が他のグループホームと相互訪問や勉強会、事例検討会などの交流する機会を持つ事で、職員のサービスの質の向上につながることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設からの入居が多く、家族の見学・入所中のケアマネジャーとの事前協議をして、サービスを開始し、利用者の様子観察をしながら徐々に雰囲気に馴染んでもらえるように努めている。	○	利用者本人の見学や日中の体験などを経験してもらい、利用者の視点に立ってサービスを開始されることを望みます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔ながらの料理の作り方・戦争体験の話など学びながら一緒に六調を踊ったり・島唄を歌ったりと喜怒哀楽を共にし、お互い支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの利用者が意思を伝えることが出来るため、職員は利用者との会話の中から思いや暮らし方の希望・意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で本人・家族・計画作成担当者・担当職員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議の中でケアカンファレンスを行い、見直しをしている。対応できない変化が生じた場合は、その都度話し合い、現状に適した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、病院受診・外出支援など柔軟な支援をしている。協力医療機関・歯科医院の往診で利用者が負担となる受診や入院を回避している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。他科受診の紹介もしてもらい、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に、事業所として出来ることの対応について高騰で伝えているが、明文化されていない。	○	事業所としての方針を明確にされ、重度化に伴う意思確認書を作成することを勧めます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時に守秘義務の誓約書を交わしている。ミーティングでプライバシーに関する話をしている。方言で穏やかにゆったりと話し、損ねるような声かけをしないように指導している。記録物は、事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に考慮してゆっくり起床する方、眠たくなるまで職員と一緒に過ごす方、日中は昼寝・テレビ鑑賞と利用者一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者の力量に合わせて發揮してもらい、職員と一緒に食事をしている。誕生日に特別食を作ったり、弁当を作り花見やドライブに出かけ食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は週2～3回を心がけている。希望があれば毎日でも就寝前・夕食後でも可能である。拒否される方には、声かけ・タイミングの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りの一連の作業・畑作り・居室の掃除など役割の場面作り心がけ、ドライブや島唄を歌ったり・七夕飾り作り・ゲートボールと楽しみごと気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、堤防沿いを散歩したり、無人販売所まで買い物に行ったりしている。敷地内では、ウッドデッキに出てお茶を飲んだり、戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者が外出傾向にある場合は、一緒に付き添い支援している。事業所の近隣の方々に見守り・協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、夜間想定も含め年2回の消防訓練をしている。非常食・飲料水の備蓄はない。	○	地震・風水害の避難訓練の自主訓練を行い、職員が自信を持って避難誘導できるように期待します。非常食・飲料水の準備をされることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量についてはチェックされているが、水分摂取量については把握されていない。栄養バランスチェック表を作り、どの栄養素が足りないか把握してバランスよく献立を作れる工夫をしている。	○	水分摂取のチェックを行い、疾病予防・脱水の予防に心がけることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井は高く、天窓と大きな窓で明るく、植物や水槽を置いている。食卓の椅子だけでなくソファが置かれ利用者が思い思いにくつろげる様に工夫している。窓からはウッドデッキに出られ、庭の季節の花・野菜を見ながら季節感を感じられ居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・パイプハンガー・ソファが持ち込まれ、各部屋に温度計を設置したり西日が入るので遮光カーテンにして、居室で居心地よく過ごせるように工夫をしている。		